

高校歴史科における探究型授業の開発

ーフィールドワークを通して〈これまで〉〈いまここ〉と向き合い、〈これから〉を展望する授業ー

本ポスター発表では、令和7（2025）年度大学・附属学校園連携事業に採択された、櫻澤 誠准教授（多文化教育系／プロジェクトリーダー）・手取義宏教授（多文化教育系／附属中学校校長・附属高校校舎主任）・報告者 古澤（附属高校）の3名による高大連携共同研究の経過について報告する。なお、最終的な研究成果については、本学研究紀要等に報告予定である。

研究の目的

生徒たちがこれからの予測困難な時代を生き抜くためには、歴史総合や世界史探究などの歴史科目を通じて「世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度」を育み、「多面的・多角的な考察や深い理解を通して、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める」こと（新学習指導要領）が重要である。そのため、本研究は、生徒たちが主体的・対話的で深く考える高校歴史科目の探究型授業の開発を行うことを目的とした。

研究計画

本研究は、戦跡を含む史跡や資料館を訪ね生徒たちがフィールドワークを通じて、過去〈これまで〉の戦争だけでなく、現在〈いまここ〉につづく偏見や差別、自由の侵害などの問題と生徒が主体的に向き合い、未来〈これから〉の世界の展望を描く能力を育む授業の開発である。取り上げる題材は、満蒙開拓、ハンセン病、沖縄戦、第五福竜丸をめぐる問題などである。

古澤は、I年「歴史総合」、II年「総合ブルー」の古澤講座、III年「世界史探究」の授業の開発・実践を行いながら、研究会での実践報告を通じて検証と改善を重ね、夏季には長野・茨城・東京・大阪でフィールドワークの下見を行い、2学期には櫻澤をゲスト講師に迎えて授業を深化させ、大阪市内でフィールドワークを実施した。さらに、櫻澤・手取「社会科内容構成演習」受講生による授業見学や、手取「中等社会科（地歴）教育法I」や櫻澤「みらい教育セミナー」において、検証・改善を続けた。3月現在、本研究の成果報告（論文投稿）の準備を進めている。

考察と授業開発

各実践後の生徒のふりかえり（ワークシート等）の記載から、こちらの予想以上に主体的に考察しているようすがうかがえた。大学生のアンケート回答などもあわせてさらに分析を重ねていきたい。

フィールドワークの下見の成果は、授業中に紹介して生徒の反応をみた。概ね好評であるが、フィールドワークの行き先として実行が現実的かどうか、今後さらに検討する予定である。現在開発中のI年歴史総合の教材・授業の対象となる単元とフィールドワーク先候補は以下の通りである。

教科書：帝国書院『明解 歴史総合』（令和7年3月検定済）

単元：3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち

5章 第二次世界大戦とその影響

3 第二次世界大戦の終結とその傷跡…（1）・（2）

4 戦後処理と日本の改革……………（3）

4部 グローバル化と私たち

2章 冷戦で揺れる世界と日本

2 米ソの緊張緩和と各国の動向……………（4）

（1）満蒙開拓とはなんだったのか

→満蒙開拓平和記念館（長野県）

（2）シベリア抑留と引揚について考える

→舞鶴引揚記念館（京都府）

（3）「あの戦争」をどのように表現し語り継ぐか

～戦後日本の博物館展示と歴史教育について考える～

→靖国神社・遊就館+昭和館+しょうけい館（千代田区）

+帰還者たちの記憶ミュージアム（新宿区）

（4）「ビキニ事件」から何を学び未来にどうつなげるか

→第五福竜丸展示館（江東区）

今後の課題

評価をどのようにすべきかという点を含めてさらに検証を重ねながら、教材・授業の開発を行い、本研究の最終的な成果をまとめて、本学研究紀要等で詳細に報告したい。

授業の実践・検証と共同研究

古澤はフィールドワークの下見と授業実践・検証を行い、櫻澤は高校での講義や教員向けセミナーを実施し、古澤も参加した。教員養成課程の手取の講義で古澤が実践を報告し、手取・櫻澤講座の学生が古澤の授業を見学・協議するなど、実践と養成を往還する研究となった。

日付	共同研究	報告者の研究・調査
4月		I年歴史総合・II年総合ブルー（古澤講座）・III年世界史探究（3科目共通オリエンテーション） 「〈戦後〉80年」に何を考えるか～「先の大戦」とは？「終戦」とは？～
7/5（土）		第91回愛知県世界史教育研究会での実践報告 「〈戦後〉80年」から何を考えていくか～「共事者」を育む授業～
7/20（日）	櫻澤「みらい教育セミナー～探究型教育実践力向上セミナー（歴史分野）～」第1回への参加（古澤）	
7/31（木）	手取「中等社会科（地歴）教育法I 第13回 歴史的分野の授業構成と展開」のゲスト講義（古澤）	
夏休み		I年「歴史総合」「〈戦後〉80年」をテーマにした課題 A「〈戦後〉80年」をテーマにした新書の刊行（刊行）を紹介する B「〈戦後〉80年」戦後をテーマにした観光プランを提案する C「〈戦後〉80年」にまつわる展覧会やミュージアムを紹介する
8/3（日）		フィールドワーク下見：満蒙開拓平和記念館（長野県下伊那郡阿智村）
8/9（土）		フィールドワーク下見：舞鶴引揚記念館（京都府舞鶴市）
8/10（日）～11（月）		フィールドワーク下見：水戸市内原郷土史義勇軍資料館／日本農業実践学園 [旧日本国民高等学校]／満蒙開拓青少年義勇軍内原訓練所跡ほか（茨城県水戸市）
8/15（金）～16（土）		フィールドワーク下見：靖国神社・遊就館／千鳥ヶ淵戦没者墓苑／昭和館／国立公文書館／東京近代美術館／√K Contemporary／しょうけい館 [戦傷病者史料館]／帰還者たちの記憶ミュージアム[平和祈念展示資料館]（東京都）
8/19（火）		フィールドワーク下見：典重拓殖訓練道場跡 [大阪公立大学附属植物園内]（大阪府交野市）
8/24（日）	櫻澤「みらい教育セミナー～探究型教育実践力向上セミナー（歴史分野）～」第2回への参加（古澤）	
8/26（火）	総合ブルー古澤講座「〈戦後〉80年」に何を考えるか」のゲスト講義（櫻澤）	
9/30（火）		総合ブルー古澤講座 フィールドワーク：「軍都大阪をめぐる」（ピースおおさか／大阪城公園内の戦跡・記念碑）（大阪市）
10/5（日）		水戸市内原郷土史義勇軍資料館（茨城県水戸市）
10/22（水）	I年C組「歴史総合」（古澤）の見学と研究協議 （櫻澤・手取「社会科内容構成演習」受講生）	
10/28（火）	III年「世界史探究」（古澤）の見学と研究協議 （櫻澤・手取「社会科内容構成演習」受講生）	
12/9（火）		III年地歴・公民科合同授業 講演会「『ビキニ事件』から何をまなび、未来にどうつなげるか」（第五福竜丸展示館学芸員 市田真理さん）
12/17（水）		II年「総合ブルー」講演会「水俣病問題から何を学ぶか～「〈戦後〉80年」以降にわたしたちができること～」（「水俣病・東海の会」原武千潮さん、今井光代さん、清川千春さん）
冬休み		I年「歴史総合」 「〈戦後〉81年」目にわたしたちは何を考えるか～ビキニ事件・水俣病にまつわる証言・資料から考える課題」
今後の予定 ～5月	授業開発・報告書作成・論文投稿（『大阪教育大学紀要』など）	

※青字は令和7（2025）年度大学・附属学校園連携事業の助成による



「中等社会科教育法I」のゲスト講義（古澤）
高校歴史科目を通じてどのような力を育むか



II年総合ブルーの櫻澤によるゲスト講義
「沖縄戦」は戦後どのように語られてきたか

歴史教科書における沖縄戦の記述に関心が集まったため、次の授業で中学校社会科歴史教科書の全社比較を実施



III年世界史探究の授業見学後の大学生との協議（櫻澤・手取・古澤）



II年総合ブルーではピースおおさかでの見学後、大阪城公園内の戦跡・記念碑をめぐる

主要参考文献

- ・赤澤史朗『靖国神社 「殉国」と「平和」をめぐる戦後史』岩波現代文庫 2017年
- ・櫻澤誠『沖縄現代史 米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』中公新書 2015年
- ・佐藤卓己『増補 八月十五日の神話—終戦記念日のメディア学』ちくま学芸文庫 2014年
- ・辻田真佐憲『「あの戦争」は何だったのか』講談社現代新書 2025年